

2018 年 9 月 28 日

通貨ニュース

フィリピン:9 月金融政策会合-4 会合連続で利上げ

フィリピン中央銀行 (BSP) は 9 月 27 日の金融政策会合で、政策金利の翌日物借入金利 (リバースレポレート) を 50bp 引き上げて 4.50% にすることを決定した (図表 1)。また、翌日物リバースレポレートの引き上げに併せて、上限金利の翌日物貸出ファシリティ (OLF) レートおよび下限金利の翌日物預金ファシリティ (ODF) レートも 50bp ずつ引き上げ、それぞれ 5.00%、4.00% とした。今回の利上げは市場予想通りであり、ブルームバーグ調査では 22 人中 20 人が 50bp の利上げを予想し、2 人は 25bp の利上げを見込んでいた。

BSP のエスペニリャ総裁は 9 月 5 日に発表された 8 月の消費者物価指数 (CPI) 上昇率が 9 年ぶりに 6% を超えたことを受けて、「食品供給の問題など価格上昇要因が重なり、許容できる範囲を超えてインフレが進んだ」と表明。「次回の金融委員会では何らかの適切な施策が提案されるだろう」と利上げの可能性を示唆していた。BSP の利上げは 4 会合連続であり、直近 2 会合では一気に 0.50% ポイント引き上げている。5 月以降の利上げ幅は 1.50% ポイントとなり、政策金利は 2011 年 12 月以来の高水準となった。BSP は声明文で「物価上昇は持続的かつ広範におよぶ兆候が根強く、追加の金融引き締めが正当化されると認識した」との見解を示した。

8 月の CPI 上昇率は前年比 +6.4% (7 月: 同 +5.7%) と加速し、6 か月連続でインフレ目標レンジ (2~4%) の上限を上回った (図表 2)。コア CPI 上昇率も同 +4.8% と 7 月から (同 +4.5%) 一段と加速し、3 か月連続で目標レンジの上限を突破するなどインフレ圧力は強い。力強い内需を反映した物価上昇圧力に加え、1 月に導入された加糖飲料税や PHP 安の影響、天候不良などによる食料品価格の高騰や原油高など複数の要因が物価を押し上げている。BSP は供給側の要因が今後数か月インフレを押し上げるとし、物価上昇が経済全体に波及 (second-round effects) する兆候がありインフレ期待は高止まりしていると指摘。BSP は 2018 年のインフレ見通しを従来の 4.9% から 5.2%、2019 年についても 3.3% から 4.3% へと上方修正し、いずれもインフレ目標レンジを上回る見通しを示している。同時に BSP は、米関税を含む供給側の要因によるインフレを緩和させる金融政策以外の適切な手段の必要性にも言及した。

声明文の結びは「高インフレの脅威に対処し、物価の安定という最優先の責務を果たすために、必要なあらゆる措置を講じる強い決意がある」と締め括った。BSP は明確なタカ派姿勢を示しているうえ、BSP が 2018 年だけでなく 2019 年についてもインフレ率が目標を上回ると予想していることを踏まえると、年内の会合 (11 月 15 日、12 月 13 日) で追加利上げに踏み切る可能性がある。

国際為替部

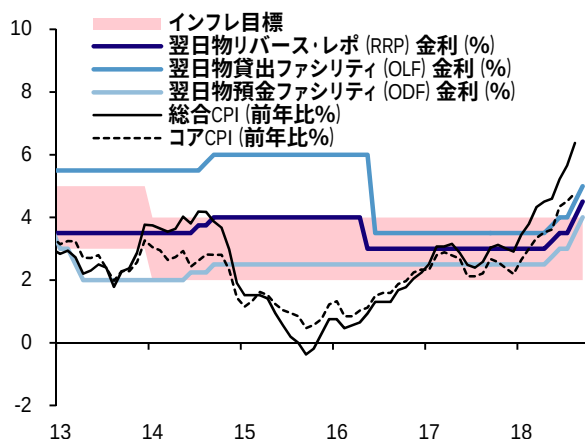
マーケット・エコノミスト

多田 健太

03-3242-7065

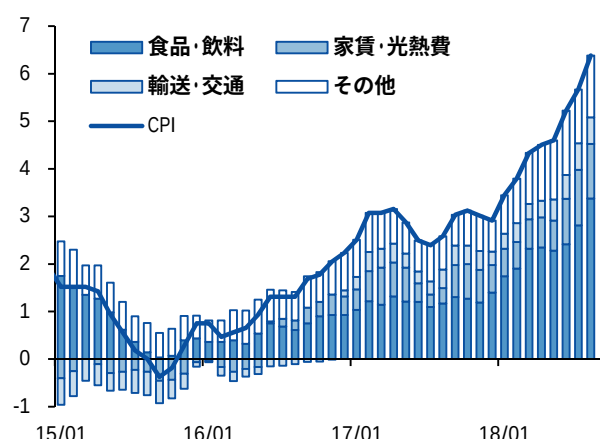
kenta.tadaide@mizuho-bk.co.jp

図表 1: フィリピンの政策金利とインフレ率



出所: フィリピン中央銀行、フィリピン国家統計局、CEIC、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: フィリピン消費者物価指数 (前年比%, %ポイント)



出所: フィリピン国家統計局、CEIC、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。